「下京区役所ホームペー
バナー広告掲載を募集

Discover（ディスカバー） 下京 ②

堤淺吉漆店（つつみあさきち）　漆を通して循環する社会をつくる

まちづくりの取り組みなどの紹介を通じて、下京区の魅力を再発見していただくコーナーです。

今回は、漆の文化と可能性を未来に継承するために、さまざまな事業に挑戦しておられる堤淺吉漆店の取り組みを紹介します。

▲漆塗りのサーフボードを持った堤卓也さん

伝統ある漆屋

堤淺吉漆店（間之町通松原上る）は、古代から使用されている塗料である漆の精製から販売を、1909（明治42）年の創業以来、場所を変えることなく続けられています。創業当時は、塗師や蒔絵師などの職人の工房が今よりも多く軒を連ねており、工芸の町として栄えていたそうです。

▲不純物を除去した状態の漆

漆文化消滅への危機感

４代目の堤卓也さんが漆の将来に危機感を覚えたのは、10年ほど前でした。堤さんによると、40年ほど前に500トンあった国内の漆の消費量が、近年では50トンを切るようになり、生産量で化学塗料に劣る漆は、このままでは生き残れないのではないかと感じたそうです。

人肌に近い、親しみやすい質感でありながら、強い強度を持つ漆。そんな漆の良さを知ってもらおうと、堤さんは木製のサーフボードやスケートボードに漆を塗り、若者や海外の人にアピールを始めました。「少しでも多くの人に漆を知ってもらうための入り口になればいいと考えたんです」

永く使うことで透明感が増し味わい深くなる漆は、堤さんの取り組みによってこれまで出会うことのなかった分野でも注目されるようになりました。

▼漆で塗装された自転車

漆がコミュニティを生み出す

「漆器は高価でなじみのないものと思われがちですが、本来、漆は木製の器などの耐久性を上げるために塗るもので、実は普段の生活に身近なものなんです」と話す堤さんは今、京北で始めた漆の植栽活動などの教育プログラムによって、人と自然のつながりをつくり出そうとしています。「里山で暮らす人と都市で暮らす人、遠く離れた人どうしが漆を通じて交流することで、新しいコミュニティができ、人と自然の距離がより近くなっていくと考えています。持続可能な循環する社会をつくるためにも、漆が人の行動や考え方を変えるきっかけになればいいですね」と将来の展望を語っていただきました。

社会における絆やつながりがより求められる今だからこそ、皆さんも現在のライフスタイルを見つめ直してみませんか。

▲漆の不純物を取り除く遠心分離機

下京マモル君からのお知らせ
～水災害時は適切に情報を収集しましょう～

10月ごろまでは、大雨や台風などによる災害が発生しやすい時期です。災害の中でも発生が予測しやすい水災害は、気象情報に注意することで被害を最小限に抑えることができます。気象情報などの情報を収集し、ハザードマップを確認して、正しい避難行動をとりましょう！

警戒レベル	市からの避難情報	とるべき行動
5	（災害発生）	命を守る最善の行動
4	避難勧告・指示	全員避難
3	避難準備・高齢者等避難開始	お年寄りなどは避難

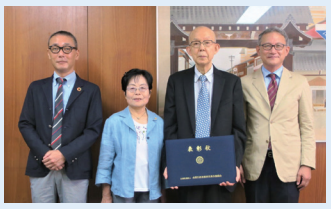
※警戒レベル１と２は省略

水災害時は、避難所へ行くだけが避難行動ではありません！
浸水想定が３m未満の場合は２階へ屋内避難しましょう！

（問）下京消防署（☎361・4411）

令和２年度 公益社団法人全国行政相談委員連合協議会会長表彰

毎月第４月曜日に下京区役所で開催している「行政相談委員による行政相談」において、行政相談委員を務めておられる佐竹哲英氏が、長年にわたり行政に関する身近な相談相手として取り組んでこられた功績を認められ、７月31日（金）に表彰されました。


表彰を受けられた佐竹氏（右から２人目）

稚松献血友の会が厚生労働大臣表彰を受賞

稚松献血友の会が、令和２年度献血運動推進協力団体などにおける厚生労働大臣表彰を受賞されました。この賞は、長きにわたって、病気やけがで輸血を必要としている患者さんへの安定供給にご尽力されている団体に贈呈されています。

千年を守る　未来を創る

下京警察署からのお知らせ
～「アマビエ安全冊」を差し上げます～

交通事故や犯罪のない安心安全な下京区となるよう、そして新型コロナウイルス感染症が収束するよう願いを込めて、このたび「アマビエ安全冊」を作成しました！

皆さんや大切な人の安全な生活を守るため、短冊を自宅や職場などに飾り、意識を高めましょう！

短冊は、秋の全国交通安全運動実施期間中の９月21日（月）～９月30日（水）10時～16時に、下京警察署受付において、無料でお渡しします。

（問）下京警察署（☎352・0110）

夕暮れに　マナーが光る　京の秋

運重

○夕暮れ時と夜間の交通事故防止と飲酒運転等の危険運転の防止
○信号機のない横断歩道における歩行者優先の徹底

謎とき！下京

この問題は、京都検定１級をお持ちで、区にゆかりのある方に出題していただいています。

燈籠堂（とうろうどう）

今年の祇園祭での山鉾巡行はコロナウイルスの影響で中止となりました。神事として榊（さかき）を捧げて斎行（さいこう）されましたが、このような形式での斎行は、昔応仁の乱で中止となった折に室町幕府からの指示でされたことがあり、今回はこれに倣ったものであるとか。室町幕府は今も健在のようです。

さて、東洞院通松原上ルに保昌山（ほうしょうやま）を護持する燈籠町があります。平安時代末期、東山小松谷に三十三間堂に匹敵する四十八間（１辺が十二間四方）の精舎（しょうじゃ）がありました。各柱ごとに１体づつ全部で48体の阿弥陀如来を安置し、48の燈籠を揚げ女房たちに昼夜灯（ともしび）が絶えないように世話をさせ、その輝くさまはあたかも極楽浄土の世界であったようです。そして毎月14、15日には、融通念仏（ゆうつうねんぶつ）会を行い、念仏を唱え終わると女房たちが鐘や太鼓をたたいて「心のやみの深きをば　燈籠の灯こそ照らすなれ　弥陀の誓いをたのむ身は　照らさぬところはなかりけり」と謡いながら堂内を回る「礼賛行道（らいさんぎょうどう）」を行ったとあります。このようなところから燈籠堂と呼ばれました。平家の滅亡によって精舎は寂れてしまいますが、室町時代に立誉上人（りゅうよ）によって東洞院松原において、浄土宗のお寺として再興され、後花園天皇より「浄教寺（じょうきょうじ）」の勅額（ちょくがく）を賜りました。その後、豊臣秀吉の京都改造により寺町通四条下ルの現在の場所に移転しました。保昌山のある町内の名前の由来はこの燈籠堂から来ています。

さて問題です。

この燈籠堂を造営し、「燈籠大臣（とうろうのおとど）」と呼ばれた平家の公達（きんだち）は誰でしょうか。

① 平清盛（きよもり）
② 平重盛（しげもり）
③ 平維盛（これもり）

はがきに、クイズの答え・郵便番号・住所・氏名・年齢のほか紙面への感想を書いて、10月９日（金）必着で、区役所地域力推進室「謎とき！下京」係までお送りください。

正解は11月15日号に掲載し、正解者の中から抽選で２名の方に「はあと・フレンズ・ストア」のレターセットを差し上げます。当選の発表は、景品の発送をもって代えさせていただきます。

浄教寺境内